



2021

1

Event

市内の催し物情報を発信

イベントスケジュール

13日④ 第9回 桂福丸旭座落語会 新春公演

■ 昼公演

時 開場 15 時 30 分

開演 16 時

内 落語 3 席

金 前売券 2,000 円

当日券 2,300 円

■ 夜公演

時 開場 18 時 30 分

開演 19 時

内 落語 2 席

金 前売券 1,300 円

当日券 1,500 円

所 まちの駅旭座（白鬚） 問 桂福丸事務局 ☎ 090・2047・3754

16日⑤ 「エシカル消費」を考える講演会

人や社会、環境や地域に配慮した消費について考えます。
テーマ「誰かの笑顔につながるお買い物～エシカル消費をはじめましょう!～」

講師：高井健史さん（福井県民生活協同組合）

時 13 時 30 分～15 時 所 働く婦人の家（大手町）

金 無料 申 申込不要、先着 50 人

問 生活安全課内 消費生活相談室 ☎ 64・6007

16日⑥ 第1回 杉田玄白講座

時 開場 13 時 30 分 開会 14 時～16 時 所 まちの駅旭座（白鬚）

内 セミナー「明智光秀が伝えた朝倉家の秘薬と、杉田玄白の用いた万能薬」

①-1 「明智光秀も知っていた越前朝倉家の薬・セイソ散」

講師：石川美咲さん（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員）

①-2 「セイソ散の薬用成分と薬効について」

講師：渡邊英明さん（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員）

②「杉田玄白先生を巡る2つの薬～テリアカと昇永水～」

講師：山村修さん（福井大学医学部地域医療推進講座 講師）

金 無料 申 12 日④までに要事前申込、先着 50 人

問 NPO 法人杉田玄白・小浜プロジェクト

FAX 52・1230 メール fujiwara@sekumiya.jp

※ FAX・メールの際は、「氏名・電話番号・人数」を記載してください

凡例

時 = 時間 所 = 場所 対 = 対象 内 = 内容

金 = 料金 申 = 申込締切、定員など

問 = 問い合わせ先、申し込み先



市内の店頭に並ぶ魚たち。ブリは大きさに応じて呼び名が変わり、北陸や関西では小型のものを「ツバス」と呼ぶが、北陸では約 20 ㍓以下、関西では約 40 ㍓以下のものを指し、同じ呼び名でも定義が違うのがおもしろい。

今月号は
こやま なおき
小山 直紀
がお届けします



地域おこし協力隊が、日々の活動や感じたことをリポート！

隊員たちのよもやま日誌

小浜に来て驚いたこと、
新鮮に感じたこと

小浜に来て最初に驚いたのは、海も山も、本当にすぐそばにあること。どこを見渡しても自然が広がる環境というのは、とても素敵です。

山海の幸も充実していて、縞模様などの見たこともない姿の魚や、「しろ菜」「マクワウリ」といった初めて聞く野菜など、これまで私が触れる機会のなかった食材の数々に驚かされます。

人との関わり方も、私が育った東京とは違っていて新鮮です。会話の中で自然と「笑い」が入り込むノリは、まるでテレビで見る漫才のようで、「やっぱり関西圏なんだなあ」と感じます。でも、皆さんにはこれが日常なんですよ。

小浜での生活は、あちこちにたくさんの「初めて」があって、自分の世界がどんどん広がっていく感じがします。

今後も、農家の方をはじめ、たくさんの人と出会って、新しいことを知っていきたくと思っています。声をお掛けすることもあると思うので、その際はぜひ「笑い」をもって迎えてやってください。

健康生活のとびら

災害発生時の病院の役割と
個人の備えについて

発生する災害の種類

災害には、大きく分けると地震・洪水・津波などの自然災害、多重交通事故や鉄道事故などの人為的災害、自然災害に引き続いて起こる火災や交通事故などの混合型災害があります。

災害時の病院の対応

小浜病院は、地震・津波・火災などの大規模災害発生時に、地域の救急の中心となる「災害拠点病院」に指定されています。病院機能が維持できる限り、災害発生時でも 24 時間体制で地域の傷病者の受け入れや搬送など緊急の対応を行っています。

また、災害が近隣地域で発生した場合や大規模な場合には、発災直後から活動できるトレーニングを受けた災害派遣医療チーム「DMAT」を被災地へ派遣しています。東北や熊本震災時には DMAT が出動し、現地で医療支援を行いました。



杉田玄白記念 公立小浜病院

■ 問い合わせ ☎ 52・0990

救急総合診療科
和田 亨 医師

普段から災害の備えを

災害は、発生してから対応している間に合いません。大事なものは、災害が自分たちの身に降りかかるかもしれないと心がけ、準備をしておくことです。防災食や救急医薬品などの備蓄や避難グッズの準備、避難路・避難場所の確認のほか、地域の防災訓練や安全点検などへの参加をお勧めします。

お薬手帳が大事

私は東北の震災時に、現地で医療支援を行っていましたが、多くの患者さんの持病や内服薬が分からず非常に困りました。例えば、「血圧の薬」というても多くの種類があり、どの薬が分らないと処方が難しくなります。災害発生時には、かかりつけの病院へ受診できないこともあるため、普段から持病やアレルギーが分かるもののほか、お薬手帳のコピーを携帯してください。

17日⑦ 季節の魚 加工体験教室

今回はサバをテーマに、魚の下処理から行って、「揚げサバの特製黒酢あんかけ」を作ります。

※調理した料理は、試食せずにすべて持ち帰り

時 14 時～16 時 所 食文化館（川崎三丁目）

対 小学生以上（小学生は保護者同伴）

金 1,000 円 申 3 日前までに要事前申込、先着 16 人

問 食文化館 ☎ 53・1000

22日⑧ ニューイヤーコンサート

クラリネット、コントラバス、ピアノの一流演奏家 3 人「瀬戸和夫トリオ」によるクラシックコンサートです。

時 開場 18 時 30 分 開演 19 時

所 文化会館（大手町） 金 1,000 円

申 文化会館でチケットを販売、全席指定

※未就学児の入場は遠慮ください

問 文化会館 ☎ 53・9700

22日⑨・23日⑩ 食文化館 季節の調理体験

1 月は「酒粕」をテーマに、酒粕ケーキサレ、酒粕のホワイトショコラ、豆とマッシュルームの酒粕クラムチャウダーを作ります。

時 いずれも 10 時～13 時 所 食文化館（川崎三丁目）

対 小学生以上（小学生は保護者同伴）

金 1,000 円 申 3 日前までに要事前申込、先着 16 人

問 食文化館 ☎ 53・1000

23日⑪・30日⑫ 「古文書に親しむ講座」（全2回）

時 いずれも 13 時 30 分～15 時 所 働く婦人の家（大手町）

内 テーマ「城下小浜町の成立と町人のくらしと文化」

①江戸時代の城下小浜の 52 町の成立とその特徴

②江戸時代の城下小浜町のくらしと文化

講師：中島嘉文さん（福井県郷土誌懇談会員）

金 テキスト「小浜町会所留書の抜書」を持っていない人は、テキスト代 500 円

申 申込不要 ※テキストを持っている人は要持参

問 働く婦人の家 ☎ 52・7002

釣姫漁港（田島）の沖に見えるいけすでは、田島水産株式会社（田島）が「小浜よっぱらいサバ」の養殖を手がけています。

同社で働く矢野さんは、魚が好きで、小学生の時から漁業に憧れるように。大学卒業後に水産関係の仕事に就いていましたが、ある日、市内でサバの養殖を始めたことを知り、「自分もサバを盛り上げたい」と一念発起。勤務先を退職し、水産業への新規就業希望者を支援する「ふくい水産力レッジ」で1年間学び、現在

よっぱらいサバを食べてほしい



勤務先 田島水産株式会社
矢野 佑樹 さん
(26 歳・山手三丁目)

は実習先だった同社で、サバの餌やりや出荷など養殖に関する業務に携わっています。

矢野さんが大事に育てたサバは、各地に出荷されます。「出荷先から、『よっぱらいサバは人気だから、これからも頼む』と言われた時は、うれしかったです」と声を弾ませます。

よっぱらいサバを全国に周知することが目標の矢野さん。「味には自信があります。市内外の人に食べてもらって、おいしいと言ってもらいたいです」と笑顔で語ってくれました。

人小浜
きりり！

感謝を胸に仕事を続けたい

平成29年に国の地理的表示保護制度（ジイラ）登録を受けた「若狭小浜小鯛（ジイラ）ささ漬」。長年、製造・販売に携わり、小浜ささ漬協会の一員としてG登録に尽力したのが、倉谷さんです。

22歳で結婚し、夫の家業である鍵仙倉谷商店（今宮）で働き始めた当初は「マダイとレンコダイの違いも知らなかった」と言う倉谷さん。

日々の仕事で磨き上げた腕前は、今や業界随一で、この秋には、県が分野で卓越した技能を持つ職人をたたえる「優秀技能者表彰」を受賞しました。

受賞について、倉谷さんは「長年ひいきにしてくれているお客さんや、未熟なころから支えてくれた従業員、何かにつけて店に様子を見に来てくれるご近所さんたちのおかげ」と、周囲への感謝を口にします。

今も毎日、仕入れや下準備のため、早朝から店に立つという倉谷さん。「店が休みの日は、人としやべる機会が減って、かえってしんどいくらい。仕事に興味なんです」と笑顔を見せ、「これからも変わらず仕事を続けていきたいです」と話してくれました。



(有) 鍵仙倉谷商店 水産加工工
倉谷 シゲ子 さん
(84 歳・今宮)

来春の大会に向け練習に励む

学校内の武道館にある神棚に一礼して練習を始める小浜中学校柔道部。今年度から新入部員の受け入れを中止した同部は、現在、川端くんが唯一の部員として活動しています。

父親が柔道経験者で、「柔道に興味を持つきっかけになりました」と語る川端くんは、「将来警察官になりたい」と、将来の夢を教えてくださいました。

入部後、先輩と2人で練習する日々が続いた川端くん。先輩が引退してからは、顧問の大岸先生が練習相手を務めるほか、「大会前には、経験者

の校長先生に相手になってもらっています。先生に恵まれていると感じます」と口にします。

新しい技を身に付けるため、川端くんは、日頃から自宅でWEB動画や本を見て、練習で試技を繰り返すことも。大岸先生は、「研究熱心で技を覚えるのが早い」と評価します。

他校へ練習試合に出かけると、練習相手と仲良くなり、「友だちになる」と笑顔を見せる川端くん。来春行われる大会に向けて、大岸先生の指導のもと練習に励みます。



柔道部 キャプテン
川端 隼斗 くん
(小浜中学校2年生)

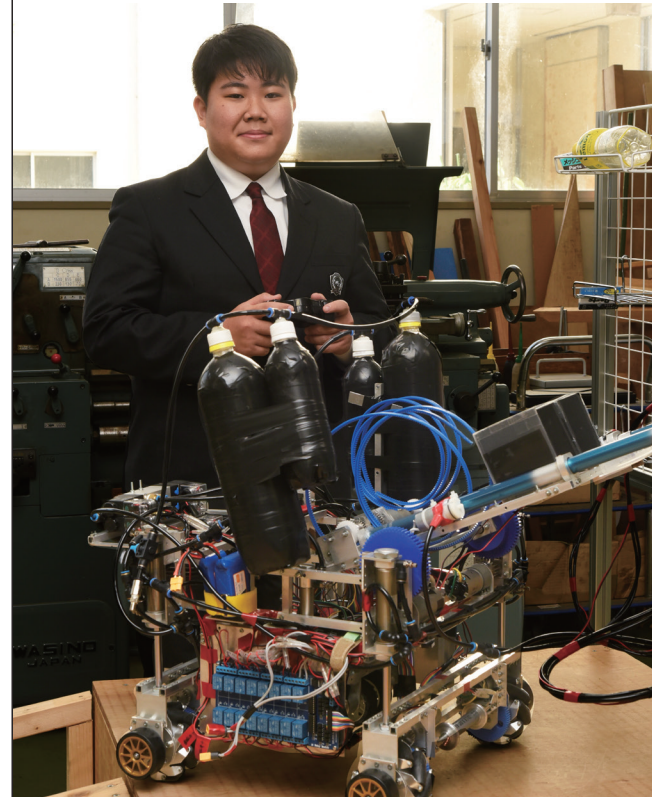
道
燃えろ！青春！部活

若狭東高校の一角にある機械工場で、伸縮式のアームなどの機構を備えたロボットの製作に取り組む工業研究部。1〜3年生の6人が、毎年開かれる「全国高等学校ロボット競技大会」に向けて、日々、機体の改良や操縦の練習を重ねています。

部長の竹下くんは、同部唯一の3年生。「部品の加工から組み上げまで、何カ月もかけて自分たちの手で作り上げた機体が、思った通りに動作したときが一番うれしい」と、ロボット製作の醍醐味を語ります。

競技は、坂や橋などを越えて、ペットボトルを所定の位置へと運ぶもの。速度と精度の両立には、馬力や重量バランスなどの繊細な調整が必要で、「一つの動作を改良すると、別のところがうまくいかなることもある。試験と改善を繰り返して、大会までにどれだけ仕上げられるかが勝負です」

今月号発行日の12月25日は、まさに県大会の当日。竹下くんは、自身最後の大会に向けて、「部員みんなと力を合わせ、優勝を目指したいです」と、意気込みを話してくれました。



工業研究部 部長
竹下 佳真 くん
(若狭東高校3年生)